

経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 恵庭市

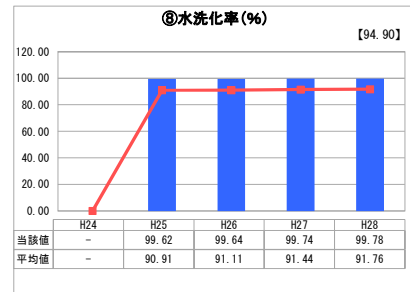
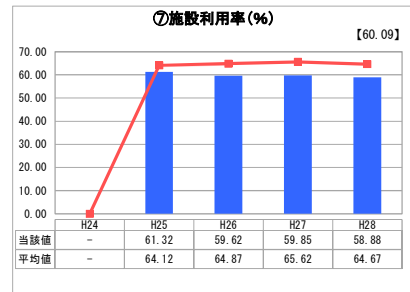
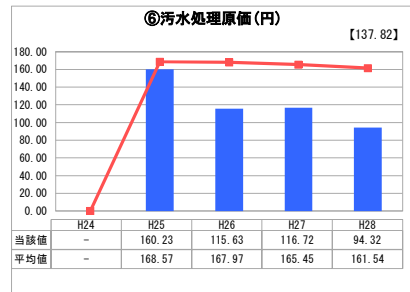
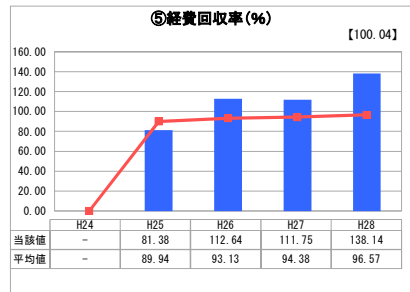
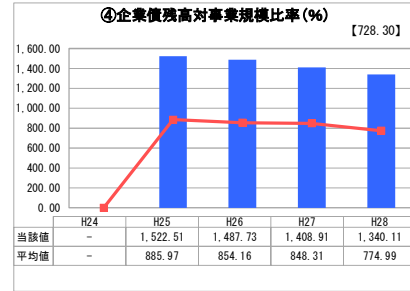
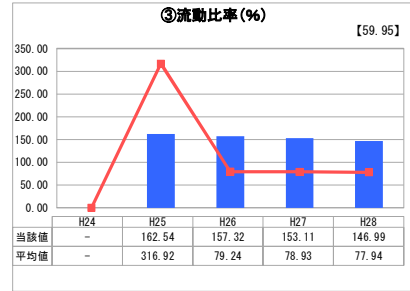
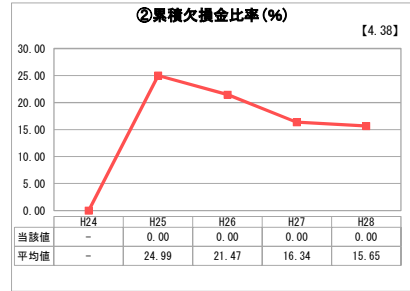
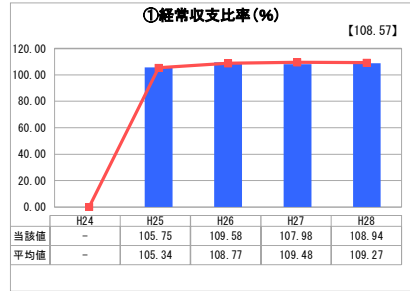
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.79	97.41	76.91	2,355

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
69,227	294.65	234.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
67,405	18.50	3,643.51

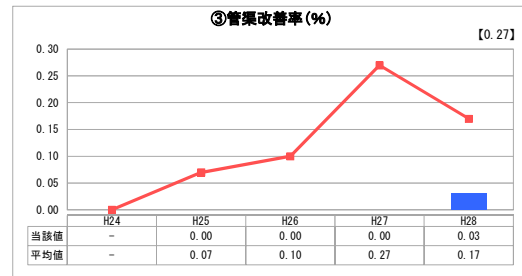
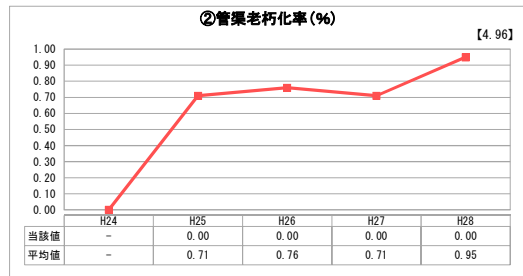
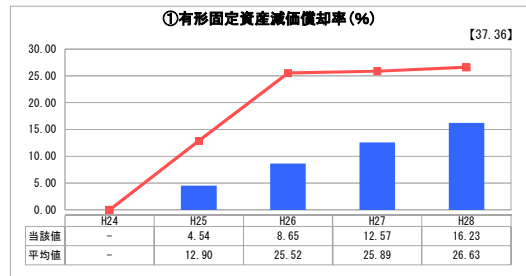
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(1) 健全性について
累積欠損金が無く、経営収支比率及び経費回収率が100%以上あることから健全に運営できているものと考えます。

(2) 効率性について
効率性の指標の一つである施設利用率は晴天時処理能力に対する晴天時平均処理水量の比率ですが、下水終末処理場の処理能力は日最大処理水量を基準に計画することが標準であるため、晴天時処理水量の最大値と平均値との差が大きい場合、一見すると効率性が低い結果になってしまいます。

ここで、仮に分子を晴天時最大処理水量とした稼働率を算出すると77%程度となり、一定の利用率を有しているものと考えます。
恵庭市の場合、有収水量全体の約4割“家事用外”であり、そのうち約5割が“工場用排水”であることから、工場の稼働状況により、処理水量に増減が生じ、日当り水量に変動を与えている可能性があるものと考えます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が比較的低く、現時点では老朽化が進んでいない状況です。
管渠については平成30年以降に50年経過管が生じ、以降増大していくことから、ストックマネジメント計画等により管渠の重要性による保全手法を設定の上、平準化を図りながら計画的に調査・改築を行うことが必要だと考えます。
処理場については、資産価値の大きい機械設備や電気設備が主な資産となりますが、管渠と同様に重要性や劣化判断可否等により資産的に保全手法を設定し、平準化を図りながら計画的に調査・改築を行うことが必要だと考えます。

全体総括

現状は経営状況が良好と判断できますが、膨大な資産を有し、多様の事業を取扱う下水道事業を今後とも健全に運営していくためには、投資計画と財政計画を整理の上、「下水道事業経営戦略」を策定し、効率的な企業運営を図っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債務高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。